

淡路人形浄瑠璃と大阪

日時:2012年3月3日(土)

13:00~15:30(12:30開場)

場所:大阪市立大学

学術情報総合センター10階大会議室

講演 中西英夫(南あわじ市淡路人形浄瑠璃資料館館長)

研究報告 久堀裕朗(大阪市立大学大学院文学研究科准教授)

よみがえる淡路人形浄瑠璃の代表作!

実演 素浄瑠璃



「賤ヶ嶽七本槍」清光尼庵室の段

たけもとともしゅう つるざわともゆう
竹本友庄・鶴澤友勇(淡路人形座)

参加無料
定員100名
(先着順)

(定員に達した場合は、大阪市立大学都市文化研究センターホームページのニュース欄にて告知します。)

○参加ご希望の方は下記の要領でお申し込みください。

申込方法:電子メール・往復葉書によるお申し込み(1通につき1名)を受け付けます。住所・氏名(フリガナ)・電話番号を明記して下記宛にお申し込みください。折り返し「参加証」をお送りします。

申込締切:2月24日(必着)

申込先:〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

大阪市立大学大学院文学研究科都市文化研究センター

「公開講演・演奏会」係(往復葉書の場合、返信用葉書の宛名も必ずご記入ください。)

joruri@lit.osaka-cu.ac.jp

*なおご記入いただきました個人情報は他の目的には使用いたしません。



主催:大阪市立大学都市文化研究センター重点研究「アジア海域世界における都市の文化力に関する学際的研究」

協力:財団法人淡路人形協会(淡路人形座)

江戸時代、淡路島には多くの人形座があり、仲間組織を作って連帯しつつ、大阪の興行界とも密接に結びつきながら全国的な興行を展開していました。こうした総体としての「淡路座」を人形浄瑠璃の一大拠点と捉え、「淡路座」と大阪との関係を明らかにすることは、現在の文楽に至る人形浄瑠璃史について考える上で、極めて重要なテーマであると言えます。

今回の催しでは、都市文化の成熟と伝播に関する研究の一環として、大阪を代表する伝統芸能である人形浄瑠璃を取り上げ、「淡路人形浄瑠璃と大阪」という視点から分析を加えるとともに、現在の「淡路人形座」から演者を招き、今年2月に淡路島で約40年ぶりの復活上演が予定されている『賤ヶ嶽七本槍』清光尼庵室の段を、素浄瑠璃で演奏していただきます。本演目は大阪初演作品の改作ですが、原作は現在の文楽では伝承されていないもので、今回の演奏によって里帰りを果たすことになります。

プログラム

日時：2012年3月3日(土) 13:00～15:30 (12:30開場)
場所：大阪市立大学学術情報総合センター 10階大会議室

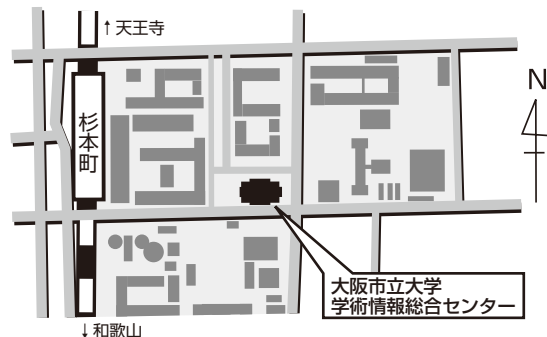
講演 「淡路人形浄瑠璃と大阪」——— 中西英夫 (南あわじ市淡路人形浄瑠璃資料館館長)
研究報告 「新出資料に見る近世淡路座の芝居興行」 久堀裕朗 (大阪市立大学大学院文学研究科准教授)
——— (休憩) ———

演目解説 「賤ヶ嶽七本槍」 久堀裕朗

実演 素浄瑠璃 「賤ヶ嶽七本槍」清光尼庵室の段 竹本友庄・鶴澤友勇 (淡路人形座)

『賤ヶ嶽七本槍』は、大阪初演の二つの作品『比良嶽雪見陣立』^{ひらがだけゆきみのじんだて}『太功後編の旗鷲』^{たいこうごにち はたあづ}を取り合わせて改訂したもので、現在の文楽では上演されない、淡路人形浄瑠璃の代表作です。有名な『絵本太功記』の内容に続く時代の出来事を描いており、小田春長(織田信長)の死後、小田家の家督相続をめぐる柴田勝家と真柴久吉(羽柴秀吉)の対立を軸に物語が展開します。今回演奏する清光尼庵室の段は、五段構成の三段目切に当たり、足利政左衛門(前田又左衛門利家)家内の出来事が描かれます。義理の娘蘭の方の命を救うために実の娘深雪を身替りとして殺そうとする政左衛門と、柴田勝家の子勝久との叶わぬ恋に身を焦がし身替りを拒絶する娘深雪との親子のやりとりが見どころとなっています。

会場アクセス・周辺図



アクセス：JR阪和線「杉本町(大阪市立大学前)駅」下車、東へ徒歩約5分
地下鉄御堂筋線「あびこ駅」下車4号出口より南西へ徒歩約20分

●お問い合わせ

大阪市立大学大学院文学研究科 都市文化研究センター事務局：06-6605-3114
(火・木・金曜日9時～17時 ※臨時に閉室することがあります。)